

院長ノート

病院のホームページに掲載している畑山院長のエッセイです。

月に1回くらい、脳外科診療や日常生活で感じている想いを軽妙なタッチで書き連ねています。

ご興味ありましたらQRコードから過去の内容もご覧下さい。



脳神経外科医
畑山 徹
(はたやま とおる)

1963年生まれ
青森で育ち、弘前大学を1988年に卒業
日立市の病院で河野拓司理事長に手術の
手ほどきを受け、東北各地で腕を磨いた
のち、2013年から当院に勤務
アメリカで三叉神経痛と顔面痙攣の治療
を学び、国内でも有数の実績を持つ
趣味は我流のピアノ
たまにライブハウスで演奏

vol. 59



はた流コミュ術

第9条「ノイズを減らす」

男女の特性の違いについては、何度かこのノートにも書いてきました。

その中でも、医療コミュ術で注目したいのは「聴覚の違い」です。

20万年も狩猟を役割としてきた男性は、視覚が獲物を探すためにすぐれています。

一方聴覚は、留守を守り子供を育てるため会話を大事にしてきた女性達より感度が低いと言われています。

例えば電話をするとき、女性は周りがうるさくても平気で話ができますが、男性は静かじゃないとうまく声を聞き取れません。

「電話するからテレビを消してくれ」なんて言うと、きっと女性は「なんで？」っ思ってるでしょう（笑）。

男性の方が耳が遠くなりやすいのも、もともと聴覚の感度が低いので、女性より老化の影響が出やすいからかもしれません。

そんなわけで、特に男性相手のコミュニケーションにおいては、まわりに聴覚を妨げるノイズがないか気をつけてあげてください。

女性にとってはこれくらいって思うことでも、男性にとっては騒がしく感じてしまうことがあります。

周囲の会話はもちろんですし、動くものや目に付くものもダメです。何しろ視覚が敏感ですから。

大事な情報や深刻な相談は、静かで落ち着いた個室で話してあげることで、説明の効果が上げられると思います。

ちなみに私は、診察の時にドアをしっかり閉めて、声に集中できる環境にしています。

それは相手に対する配慮でもあります。

私自身が男性の弱点を痛感しているからです（笑）。



BLOG 院長ノート

<https://mito-bhc.com/blog/blog.html>



バックナンバー

PDF でダウンロードできます

https://mito-bhc.com/blog/blog_note.html

